

## 第3回 黒部ルート一般開放・旅行商品化準備会議

日時：令和4年1月18日（火）

10：00～11：30

場所：富山県民会館8階バンケットホール

### 1 開会

### 2 挨拶（蔵堀 富山県副知事）

本日は雪の中、また皆様大変お忙しい中ご出席頂きまして誠にありがとうございます。

黒部ルートでございますけれども、令和6年度から最大1万人の方に一般開放・旅行商品化を実施することとしております。関西電力様や地元黒部市、関係事業者の皆様で準備を進めているところでございます。世界的な山岳景観を誇ります立山黒部アルペンルートと日本一のV字峡谷であります黒部峡谷を周遊することが可能となります。日本の電源開発の歴史などを体感できる大変貴重な産業観光ルートを設定することができると考えております。

また、来年、令和5年には宇奈月温泉の開湯100周年を迎えます。更に、再来年、令和6年には北陸新幹線の敦賀延伸が予定されているところでございます。黒部ルートへの期待というものはずっと高まってきているものと考えております。

さて、現在、富山県では新たな成長戦略の策定を進めているところでございます。その柱には経済的な豊さに加えまして、身体的・精神的・社会的にも満たされた状態である真の幸せ、ウェルビーイングの向上を大きな目標に掲げております。これは富山県で暮らしている人だけではなくて、観光で訪れる皆様にも本県にある数々の幸せを実感できる「幸せ人口1千万人～ウェルビーイング先進地域、富山」をビジョンといたしまして、地域の皆様とワンチームとなって取り組んで参りたいと考えております。本県の地域活性化、観光客のウェルビーイングの向上、そして富山県観光が新しい未来を切り拓いていくためにも、今後とも皆様のご協力をよろしくお願いしたいと思っております。

本日は一般開放・旅行商品化に向けた県や黒部市の取組み、また関西電力さんが進めておられます安全対策工事の実施状況などにつきましてご説明させていただきます。委員の皆様にはそれぞれのお立場からご意見をよろしくお願いいたします。

### 3 委員紹介（新任のみ）

## 4 議事

### 【司会】

なお、委員の皆様につきましては本来であればお一人ずつご紹介させていただくべきところがございますけれども、時間の関係もございますので、お手元の委員名簿に、出席の配席図にてご紹介に代えさせていただきます。

次に、資料のご確認をさせていただきます。資料は、お手元の次第の下に委員名簿、配席図、資料は1・2・3、それから関西電力様の資料がございます。もし資料の不足等がございましたら、お申し付けください。それではここからの進行は、西村委員長にお願いしたいと思います。西村委員長、よろしくお願いいたします。

### 【西村委員長】

それでは次第に基づきまして司会進行させていただきます。会議の終了時間は11:30を予定しておりますので、議事の進行にご協力の程よろしくお願いいたします。

それでは(1)一般開放・旅行商品化に向けた取組み状況につきましてまずは県における取組状況等のご説明をお願いいたします。

(事務局より資料1に基づき説明)

### 【西村委員長】

ご質問があると思いますが、まず説明を一通り行いまして、全員の委員の皆様方にご発言をお願いする形で進めたいと思います。それでは続きまして旅行商品化に向けたスケジュールにつきまして運営主体であります株式会社JTBからご説明をお願いしたいと思います。

### 【杉浦 (株)JTB富山支店長】

JTB富山支店長の杉浦でございます。

まず、商品化の計画につきましては概ね計画通り推移しております。準備期間につきましては残り約2年となりますが、今後重要なことは国内外へのプロモーションだと考えております。国内においては先ほど副知事様のご挨拶にもあった通り北陸新幹線の敦賀延伸、宇奈月温泉開湯100周年に加え、弊社JTBグループ全社で取り組む「日本の旬 北陸キャンペーン」にも誘致に向けて調整をしているところでございます。こういった大型イベントを追い風に富山県、それから北陸エリアの交流人口の拡大に向け、引き続き取り組む所存でございます。それでは商品化のスケジュールにつきましては担当より説明申し上げます。

(株式会社JTB富山支店より資料2に基づき説明)

### 【西村委員長】

ありがとうございます。それでは続きまして黒部市における宇奈月温泉街等の魅力創出・受入体制整備に関しまして黒部市より説明をお願いしたいと思います。

(黒部市より資料3に基づき説明)

### 【西村委員長】

ありがとうございます。それぞれのお立場で準備が進んでいるということがよくわかりました。それではここで関西電力から一般開放・旅行商品化の前提となる黒部ルートの安全対策工事の状況について資料をいただいておりますので、本日出席の久米委員の方からご説明をお願いしたいと思います。久米委員よろしくお願ひいたします。

### 【久米委員】

関西電力の久米でございます。

本日はお手元にお配りしておりますA3資料と実際の映像で安全対策工事の状況についてご報告させて頂きたいと思ひます。まず私の方からお手元A3の資料、タイトルが「黒部ルート安全対策工事」と書いてあります資料で説明いたします。

資料左上に記載がございます通り、トロッコ電車の終着駅であります榎平から黒部ダムの間、全長約18kmの坑道トンネルの部分が黒部ルートでございます。左下に工事概要と書いてあります①上部軌道トンネルの安全対策工事、②上部軌道の避難箇所の整備、③車両の更新、④黒部トンネルの4つの安全対策を実施しております。右上に工事工程を記載しておりますけれども、現在上部軌道トンネル内のモルタル吹付け工事、黒部トンネル内の補強工事を実施しております。工事全体としましては最新の数字で45%程度の進捗状況となっております。これらの工事ですけれども、昼間の時間帯は上部軌道トンネル、黒部トンネル等は既存の水力設備の維持管理に使用しておりますため、安全対策工事そのものは冬の期間含めてすべて通年20時から翌朝3時にかけての夜間に実施しております。新型コロナウイルス感染症の影響で2020年度のゴールデンウィーク前後、それと冬期に約2か月間工事を中断いたしましたが、現在のところ工事は順調に進んでおりまして、今後2年程度の工期がある中で目標工程を変えることなく2024年春の工事完了を目指していきたくと思ひております。

今後とも黒部奥山という厳しい自然環境のもと、新型コロナウイルス感染症予防対策も講じながら工事関係者の命と健康を守るための最大限の注意を払いつつ、引き続き安全最優先で工事を進めて参りたいと思ひております。

では続きまして、実際に安全対策工事を映像でご紹介いたします。狭いトンネル内での作業という特殊な作業環境を知っていただく機会になればと思ひております。なお、説明につきましては安全対策工事の現場責任者からご説明申し上げます。

(映像と映像による説明)

### 【西村委員長】

どうもありがとうございます。大変な作業をされているのがよく分かりました。

それでは、一般開放・旅行商品化に向けた各機関における今年度の取組み状況につきましてご報告頂きましたのでここで旅行商品の企画の方向性等を中心に皆様からご意見をお願いしたいと思います。

まず全国的、全県的な活動をされている委員からご意見を頂き、次に地元委員からのご意見をいただくことにしたいと思います。こちらで指名させていただきますのでよろしくお願いたします。まずは旅行業の観点からJATAの松田委員をご指名したいと思います。よろしくお願いたします。

### 【松田委員】

非常に我々旅行業としてはありがたい商品でございます。特に宇奈月温泉さんにとっては知名度的にも世間的にも非常に魅力のある商品だろうと思います。映画の「黒部の太陽」を思い出しますが、そういった面も含めていろんな点で我々の業界の人たちもまだこの黒部ルート的一般開放自体、はっきりと知らない人が多いと思いますのでできるだけ早く知らせるということ、インバウンド向けには航空会社に早めに話をして、機内誌などに将来的に載せてもらえるような体制にすれば一気に広がっていくのではないかと思います。魅力的な商品であることは間違いございませんのでこれをマスコミ等通じて一緒に旅行商品も販売していくということ、今ほど申し上げた航空会社も含めて交通機関等々としつかりと連携をして進めていくということが大事だと思います。以上です。

### 【西村委員長】

ありがとうございます。では続きまして観光業及び交通事業者による観点からJR東日本の日野委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

### 【日野委員】

JR東日本の北陸営業センターの日野でございます。

色々今後の旅行商品化に向けての計画をお聞きいたしました。計画の中でいくつかプロモーションに関係することが述べられておりました。プロモーション期間は残り2年ということになります。旅行商品が2024年の年初に発売になるということを考えますと、ちょうど2年という限られた期間で周知をしていくこととなります。首都圏や関西圏等、大都市圏で認知度を高めていくことが大事だと思っております。資料にもデジタルサイネージであったり、あるいはテレビの撮影等様々な手法を述べられておりますけれども、是非幅広い形でのプロモーションで多くの方に認知していくことが大事だと思っております。リアルな場を活用したプロモーション、あるいは海外へのプロモーションをご検討いただくと良いのではないかと思います。以上でございます。

### 【西村委員長】

はい。ありがとうございます。それでは同じく交通事業者の観点から、J R西日本の森下委員代理にお願いします。

### 【森下委員代理】

はい、ありがとうございます。J R西日本の森下でございます。

これまで取組みを進めて頂きました関係者の皆様に敬意を表させていただきます。ありがとうございます。ご説明頂きました商品化、それからプロモーションにあたっては、資料にも記載あります通りしっかりこれまでの歴史的な経緯、それらを踏まえた価値、当然のことながら安全に配慮した方向性で行うべきかと思えます。それから冒頭にご説明頂きましたけれども、コロナ禍で観光・交通業界は厳しい状況ではありますけれども令和6年、2024年の春には北陸新幹線の敦賀開業がございますので、黒部ルート的一般開放とあわせてJR東日本さんと連携しながらしっかり誘客の面で貢献させて頂きたいと思っております。

それからキャパシティの話もありましたので、JTBさんからご説明頂きました通り高付加価値というところでしっかり効果の最大化、それから多くの波及効果、産業であるとか旅行全体に普及させるような工夫等しっかり行っていきたく思っております。よろしくお願いたします。以上です。

### 【西村委員長】

はい、ありがとうございます。それでは同じく交通事業者の観点からANAの宮本委員お願いたします。

### 【宮本委員】

ANAの宮本です。よろしくお願いたします。

今回この新ルートについては富山で最も有名な観光地である立山黒部アルペンルート、黒部峡谷トロッコ列車が結び付くということで非常に大きな話題性のあるものだと思います。日本国内の方、海外の方にお伝えしていくのが大切だと思うので、年間1万人というお話がありましたので、1日当たり約50名の方になると思うのですが、そういった希少性というのをお伝えして、その高付加価値という点も踏まえて商品造成していくのが良いのだろうと思います。そういう中で交通事業者、旅行会社含めて誰にどういう形で商品を伝えていくのか、県民向け、国内向け、海外向けに限られたものをどうやって売っていくかが非常に難しいところだと思いますので、連携しながら商品づくり等、実施していかなければいけないと思っております。

非常に話題性があると思いますので、先ほど申しましたようにそれぞれの利用して頂きたい方に伝えていくということと、この方たちに富山全体を知ってもらうような形にして、富山の魅力を知ってもらってその方たちがリピーターになって富山の魅力を発信していくと、そういった繋がりができるような取組みができると思いますので、引き続き我々も頑張っていきますのでよろしくお願いたします。

### 【西村委員長】

ありがとうございます。それでは続きまして県内に拠点を置く旅行業の観点から、富山県旅行業協会の永守委員お願いいたします。

### 【永守委員】

富山県旅行業協会の永守でございます。

昨年の第2回会議に出席させて頂きました折、同じようなことを発言した記憶がございますが、年間の集客人員が1万人と聞いております。年間といっても冬季期間は休業すると営業期間は5～6ヶ月。と言うことは1日50人から60人程度の集客人員というようなことになるのかなと思います。商品の造成及び販売について具体的にどれくらい前になったらどういう商品ができ、どれくらいの値段で売するのか、またどのような売り方をするのかという事がまだ見えてきていません。まだ2年前だから構わないのかもしれませんが、日だけがどんどん過ぎていくという状況になりますので、そういう具体的な企画・造成・販売・実施などのタイムスケジュールをお聞かせいただくと大変ありがたいと思います。

また、我々旅行者としては売り方をどうするのかという事が非常に気になる点です。1日50人という少ない人数なので半分、5割が県内、5割が県外の方に販売するとどう売れば良いかが一番気になるところです。今、マイクロツーリズムというのがこのコロナ禍の中で声高に言われている中で、地元の旅行者としては地元の方たちを地元の観光地へお送りしたいという事に取り組んでおります。この販売数の割合等も一度お聞かせいただき販売数の割合の決定をしていただくとありがたいと思います。

また、販売方法ですがチラシなどの紙ベースで告知、販売していくのか、インターネットで販売するのも気になる点です。国もデジタル化の推進というような話が出ておりますのでその点も含めてこのどう企画商品を商品化して、どう売っていくのかということもお聞かせいただくと大変ありがたいと思っております。

いずれにしても、マイクロツーリズムを真摯に取り組んでいかなければいけないと思っておりますし、そのような商品を作って売っていくというのが我々旅行者の基本的なスタンスだと思っておりますのでこの辺を含めまして希望・質問をさせていただきました。

### 【西村委員長】

ありがとうございます。今タイムスケジュールのお話がありましたので、一通りご発言が終わられましたら何らかのお答えをお願いしたいと思います。それでは続きまして富山県の観光地域づくり法人の会長であります、高木委員よろしく申し上げます。

### 【高木委員】

随分、皆様のご尽力によって準備が進んできたなと思って聞いておりました。特に関西電力さんの安全対策工事も大変なご尽力でここまでよく来たと思っております。

さて、私の方で2点ほどお願いがあります。まず1点は黒部市さんで産業滞在型観光を実施されており、これと結びつけて活性化しようと取り組んでいらっしゃる点は大変良いと思います。是非、YKKさんもありますし、川端黒部商工会議所会頭さんも来ておられますので、産業観光も入れて頂きたいと思っております。

2点目が実はその産業観光で、富山大学で5年ほど講座を持っておりまして、学生（約100人）からコメントを頂きました。こちらからは学生に情報を発信してもらう目的で、1人10件以上SNSで、写真でも見に行ったところの感想でも投稿して欲しいと呼びかけてきました。富山大学は県外の学生も相当増えてきておりまして、随分沢山の人が、黒部ルートや関電のミュージアムにも行ってもらいました。その感想はいろいろあるのですが、1点だけ共通しているのが「こんな素晴らしいのに圧倒的に発信力がない、初めて見た、いや素晴らしい」という感想であります。是非、1人1品運動ではないですが、これからプロモーションにかけて今日お集りの各団体、各人が1日何人にこの素晴らしさを発信していくのか、プロモーション映画のように、もう、まだかというくらいにやっぱり発信していかないと、結局知る人ぞ知る、と。もう一回言いますがこんな素晴らしいのに何で発信しないのかというのが大方の共通項です。以上です。

#### 【西村委員長】

発信を是非、ということですね。ありがとうございます。それではここからは特に地元からの視点でのご発言をいただければと思います。まず、黒部ルートを管理されている関西電力の久米委員の方からお願いいたします。

#### 【久米委員】

はい。ありがとうございます。

当社といたしましては、先ほどご説明いたしました黒部奥山という厳しい自然環境のもと、新型コロナウイルス対策も講じながら工事関係者の命と健康を守るため細心の注意を払って安全最優先で2024年春の竣工に向けて安全対策工事に取り組んでいきたいと思っております。

また、今後皆さまで検討・展開されます旅行商品の造成、プロモーションまた宇奈月温泉の更なる魅力創出に関しましては当社として可能な限り協力して参りたいと考えております。一般開放・旅行商品化につきましては、黒部峡谷の美しくも厳しい大自然を体験していただくというのはもちろんですが、我々としましては高峰譲吉先生に始まる電源開発に果敢に挑戦した先人たちの情熱と使命、その歴史を多くの皆様に体験していただくようなものになればと考えております。

合わせて、昨今カーボンニュートラルが声高に叫ばれておりますけれども、CO<sub>2</sub>を出さない、環境に優しい再生可能エネルギーである水力発電、我々もいろいろな形で水力発電所のリフレッシュ、更なる開発を進めておりますけれどもそういった水力発電をもっと知っていただく、再認識していただくというものになればと考えております。以上です。

### 【西村委員長】

ありがとうございます。それでは続きまして黒部ルート of 接続の観点から黒部峡谷鉄道の鈴木委員よろしく願いいたします。

### 【鈴木委員】

はい、黒部峡谷鉄道の鈴木でございます。

今日の話も色々お伺いいたしまして、大変ワクワクしているところでございます。まだまだ実際にお客様が来られるのは先々ではございますけれども、PR効果に期待しているところでございます。黒部峡谷鉄道はご承知の通り宇奈月温泉にございます地元の企業として、また今ご説明がありましたように関西電力様の水力発電事業の協力会社として事業を50年間行って参りましたけれども、今回の件につきましては出来る限り協力していくということで、先ほどJTBさんのご説明の中にもございましたけれども黒部峡谷鉄道も含めた案内等の整備に関しては出来る限りのご協力をさせていただいて、お客様をお迎えする準備をさせて頂きたいと思っておりますし、先ほど黒部市さんからご説明がありましたように、地元の活性化という意味では、シーズン外ではございますけれどもいろんな事業に新たにチャレンジしていきたいと考えてございます。今、いろいろコロナで旅行業とか、観光業の皆様が傷んでいるところではございますけれども、これもちょっと先の出口としてこの案件をぜひとも地元の皆様と一緒に導きたいと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

### 【西村委員長】

ありがとうございます。それでは同じく黒部ルート of 接続の観点から立山黒部貫光の見角委員お願いいたします。

### 【見角委員】

立山黒部貫光の見角です。

昨年プロモーションビデオが出来上がりましたので私どものアルペンルート内のデジタルサイネージでもってフルタイムでシーズン中放映させて頂いておりました。非常に県外のお客様が興味を持ってご覧になっておられたように思えます。いずれにしてもこの黒部ルートは希少価値の高いプレミアムなルートとして、旅行商品の魅力をこれからどう展開していくかというのが非常に大事なことで思っております。

特に富山県内、県民の方に、まず知っていただくことが非常に大事だと思います。まだまだ知られていないというのが私から見た感じであります。それから先ほどの資料2にありました旅行商品化に向けたスケジュールですけれども、令和5年度からの商品造成、商品販売の準備は、できるならば令和4年度の後半あたりから進めていく必要があるのではないかと思っております。令和5年度と言いますと、結局来年の4月以降になってしまうでしょうから、そのあたりも含めて、令和4年度の後半あたりからこれを進めていくべき、少しでも早くですね。それから開業に向けて切れ目のない機運を高めていくことが非常に大事ではないかなと思っております。私の方からは以上です。黒部ルートはインパクトのある商品になると思いますので、ぜひ、立山黒部



アルペンルートはもちろんでございますけど、県内全体がにぎわうような取組みをして頂きたいとお願いを申し上げます。以上です。

#### 【西村委員長】

ありがとうございます。その点も後でお答えください。それでは続きまして地元の交通事業者の観点から、富山地方鉄道の辻川委員お願いいたします。

#### 【辻川委員】

黒部ルートはインパクトのある商品になると思いますので、ぜひ、立山黒部アルペンルートはもちろんでございますけど、県内全体がにぎわうような取組みをして頂きたいとお願いを申し上げます。以上です。

#### 【西村委員長】

ありがとうございます。それでは地元の宇奈月で宿泊事業を運営されておられます、宇奈月温泉旅館協同組合の濱田委員お願いします。

#### 【濱田委員】

旅館組合の濱田でございます。常日頃、本当に皆様のご支援をいただいて頑張っているところであります。

関電ルートは、我々の念願であります、やっと見えてきたかなという感じになりました。この話題が上がってから宇奈月温泉は色々な方面からマスコミ等で取り上げていただいております、観光庁の補助金等で温泉街が整備されております。私はこの関電ルート、これをきっかけとしまして今まで地元であまり脚光を浴びていなかった所をこの機会に是非磨きを上げて商品として販売していきたいと思っております。これすべて相乗効果になります。先ほどから、電源開発について、関西電力の久米支社長からのお話の通り高峰讓吉の東洋アルミナム株式会社、あるいはそこに関わってきている三共株式会社、製薬会社です。そのお金で電源開発が始まったわけでありまして。そこから日本電力に代わり、戦争が始まってからは国営の日本発送電株式会社、昭和26年5月1日から関西電力さんとなるわけでありまして。これだけの長い歴史には、色々な切り口があると思います。これからこの歴史をまとめてシリーズ化してこの関電ルート、あるいは黒部峡谷に何回でも来ていただけるような仕組み作りをしてきたいと思っております。

この商品を成功させるのもやはりガイド次第であります。本当にこの大自然の中に挑戦した、末端の建設会社、その建設会社の下請けをしている現場の方々、そういった生の声、おそらく存命でないと思いますが、資料をもう一度調べて世に出したいと思っております。私共宇奈月の者にとっては本当にワクワクする事業であります。これを何とかしっかり取り組んで富山県の観光、先ほど副知事が言われていました、ウェルビーイングの向上に向けて頑張っていきたいと思っております。引き続き皆様のご支援よろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

### 【西村委員長】

ありがとうございます。それでは、続きまして地元宇奈月の住民のお立場から宇奈月温泉自治振興会の河田委員をお願いします。

### 【河田委員】

宇奈月温泉自治振興会の河田でございます。

黒部ルート的一般開放について着実に準備が進められてきている事は、地元の宇奈月の者としては大変ありがたく思っている次第であります。宇奈月温泉について先ほどからお話して頂きましたが、来年開湯100周年を迎えます。昨年12月末に役所内の実行委員会を設立し、少し早いかなという気はいたしましたが1年前から盛り上げていきたい、弾みをつけていきたいという事で立ち上げ、今年はプレ100年というか100周年のイベント等を色々仕掛けながら来年の本番を迎え、それを黒部ルート開放に繋げていくこの3年間を宇奈月温泉の大きな節目の時だと位置づけております。その中で宇奈月温泉の様々な魅力を改めて再発見したり、あるいは新たな魅力を作っていきたいと考えている所です。具体的な事については先ほど市の方から説明がございましたが、我々としてはその計画に基づいて着実に住民としても協力をしていきたいと思っております。県としても、黒部ルート開放に向けてということもあるのですが、宇奈月温泉にある県道の改修にも、手を付けていただいているという状況でございますし、景観整備についても廃屋の撤去だけではなくて、より宇奈月温泉を楽しめるような環境にしていく努力をしていきたいと思っております。

私が代表として携わっております、ガイドの「ハートの台地」の名称は、宇奈月温泉そのものがハートの形をしていることからつけた名前ですけども、なによりも宇奈月にこられる方々をもてなしたいという心、ハートから付けた名前でもあります。その「ハートの台地」をより充実させていきたいという事でこの2年間養成講座等やって参りました。来年、さらにもう1年研修をしながらより質の高いガイドの会にしていきたいということで是非、ガイドの会をご活用していただければありがたいと思っております。以上です。

### 【西村委員長】

ありがとうございます。では続きまして地元黒部・宇奈月の観光地域づくり法人であります、黒部・宇奈月温泉観光局の川端委員をお願いいたします。

### 【川端委員】

はい、観光局川端でございます。

観光局としましては、先ほど黒部市さんが説明されましたこのルートの起点になります宇奈月温泉の魅力創出に繋げていきたいと思っております。まさに先ほど高木委員からもお話ありましたが、このルート自体が産業観光のルートであると認識しています。あわせて電源開発の歴史をめぐる旅といいますか、そういう形でこのルートを発信、売り出していけばいいのかなと思っておりますし、併せてそのルートにプラスアルファの部分を加えていくというのが大事なのではないかとということで、宇奈月、

黒部を中心とした新川地域での観光の要素をこのルートに取り入れていくような形で進めていければいいなと思っております。

先ほど永守委員のお話にもありましたけれども、どういう形の商品になるのかというのは早く知りたい、地元の観光業者としての今の思惑でございます。販売体制も含めて、どんな形でその商品が作られていくのかを早めに教えていただければと考えます。以上でございます。

#### 【西村委員長】

はい、ありがとうございます。それではここから、県外からお越しいただいている有識者の方から色んな視点でのお話をお伺いしたいと思います。

桜美林大学の渡辺委員お願いいたします。

#### 【渡辺委員】

お疲れ様です。桜美林大学の渡辺です。

マーケティングの観点から1つ、それから販売体制の観点から1つ気づいたことがありますので、お話をさせて頂きたいと思います。

今日頂いた資料、例えば県の資料1、それからJTBさんの資料2の中でも、また、これまでの会議の中でも、商品のストーリー作りが言われてきているかと思います。観光資源、観光地のストーリー、観光資源にはこれまでどんな歴史的背景があるのかとか、それからその観光資源が現在その地域に住んでおられる方とか働いておられる方とどうつながっているのかということが、このストーリーにあたると思います。観光振興の中でそのストーリーが非常に重要になると言われているのはもう皆様ご承知だと思います。全くその通りだと思います。

ただ、1つ注意というか留意する必要があると私が思っているのは、これは別に実証的なデータがあるわけではないのですが、観光資源のストーリーをお客様が例えばガイドさんから聞くと、そこでその納得感といいますか、「来てよかった」という納得感、満足感が確かに得られます。その意味で観光地でのガイドさんの話によるストーリーというものは重要です。遥々来られた方が「来てよかった、こんな背景があるのだ」と理解してくれる。それがなぜ重要かという、1つにはこのストーリーが口コミを呼ぶとよく言われるのです。しかし、ここで1つ注意、留意するべきだと私が思うのは、ストーリーとは、いわゆるツアーの販売時点、POP（Point of purchase advertising）でその販売する側が説明し易いものであるか、あるいはまた旅行に行く前、つまり、使用前の旅行者がそれを聞いて、そこに行ってみたいと思うかということ、必ずしもそうではないということです。繰り返しますけれどこれは実証的なデータがあるわけではありません。ただ、ストーリーとは、あくまでも旅行地での満足感、納得感を提供するものであって、販売時点での動機付けには必ずしも繋がらないと思います。

そこで、例えばですが、今回のこの新ルートを想定してみて、旅行会社のカウンター（最近カウンター販売は少ないですけども）で販売担当の方がお客様を前にして、どのような説明をするかということをもっと考えてみます。例えば、今日配られている

資料で、コレですよお客様、と言えるのかもしれませんが。つまり、その時点で必要なものは、今回の新ルートの中で、そのハイライトは何なのか、「ここが1番すごいですよ、お客様これ見に行きなさい」、「だから今回の新ルートなんです」と伝えるハイライトを決める必要があるということです。確かにこのパンフレットを私が初めて見た時、「すごいな、これ行ってみたいなあ」と思いました。だからそういう意味ではこれは良い線行っていると思います。今回この商品の中の「売り」、マーケティング的に言うならば「お客様にツアーの販売担当者が説明できるか」、学問的に言うならば、ア IDM (AIDMA) の法則がありますが、最近 AISAS とか AISCEAS が出てきていますけれども、これらは頭に A と I が共通しています。つまり、この場合は旅行会社の販売担当者が例えばカウンターで、あるいは HP のトップページでアテンション、そして次のインタレストですよ、それがなければならぬので、その「ウリ」の部分の早急を決めるべきだと思います。今回の新ルートの中でどこがお客様に「これ見に行きなさいよ」と言うべき箇所を決める必要があるのではないかとということが1つです。

もう1つが販売体制のことです。資料2でJTBさんからの説明で、今年度国内旅行会社ヒアリングが行われたとあります。いつかこの会議でも申し上げたかと思うのですが、今回、商品のボリュームから言って決して大きいボリュームではないので、極端な話、今回ご担当されているJTBさん1社で十分販売できる量という感じもします。

今回のこの資料の中で、旅行商品化の2年前、令和4年度に旅行会社向け説明会、取扱旅行会社選定というところがあります。先ほどもちょっとOTA (Online Travel Agent) の話が出ましたが、中長期的にみて、全国の販売チャネル、販売旅行会社に広めておく必要があると思います。繰り返しますが、おそらくJTBさん1社で楽に売れると思います。売り切れる量だと思います。しかし、長期的にみて、この先販売できる量がどうなるかは分かりませんが、やはり複数の販売チャネル、これはオンライントラベルエージェント含めて、そういったところにもこの商品を販売できるチャンスが来ている体制を作ることが大事だと思います。具体的には何かと申し上げませんが、旅行業界でも、いわゆる1社独占というケースが過去にも何件かありました。今でも若干あります。それはそれでどう見るかですがやはり先ほどからお話に出ている認知度という点からみると、販売チャネルは広い方が良い。ただその分ハンドリングも難しくなりますが、これは仕方ないことかもしれません。

販売チャネルを広げるということで、この今日の資料でいきますと、令和4年度に旅行会社向け説明会、取扱旅行会社選定とありますが、これは令和4年度の中でも早いタイミングで進める方が長期的に、最終的にプラスになってくるのではないかと思います。以上です。ありがとうございます。

#### 【西村委員長】

ありがとうございます。毎回時間が押して渡辺先生には早口になっておりましたけれども、今日はゆっくりと、重要なテーマをご指摘いただきありがとうございます。

それでは山田桂一郎様お願いいたします。

### 【山田委員】

改めまして、おはようございます。JTIC. SWISS代表の山田でございます。

今回この会議に合わせてスイスから戻ってきました。隔離も終わり、隔離直前にはPCR検査も受け陰性を確認して参加させていただいております。

渡辺先生もおっしゃっていましたが、今日は発言時間に余裕がありびっくりなのと、他の方々もとお話したいことあったのではないかと思ってもいました。今日ご説明をして頂いた点から、意見と質問も含めてお話をさせて頂きたいと思えます。

先ほど渡辺先生からはマーケティングの話として、皆様よくご存じの4Pのプレイス、販売チャネルの話があり、それからプロモーションのお話を整理していただきました。最後には、非常に価値のあるプロダクト・商品化の部分とプライス・値段の部分をどうするかという点にも触れて頂きましたので、これらマーケティングに関しては、この後時間をかけて取り組むべきで、特に市場変化を見ながら対応していくことが求められます。価格については安売りにしてほしいと思えます。ただし、地元の方に対して、県民の方に対しての提供方法と値段は考慮すべきだと思えます。

本日、関西電力の皆様からご説明頂いた工事状況、工程に関してのご説明に非常に感動しております。今日ご説明のあったJTBによる県内外のプロモーションですけれども、こういった新商品はインナープロモーションがとても重要です。

実はスイスとイタリアをロープウェイで繋ぐ計画があります。日本の富士山より高い3,820mのスイス・ツェルマットのクライン・マッターホルン展望台とイタリアのプラト・ローザ展望台3,500mがロープウェイでつながり、この春にオープンです。実際YouTubeでお見せしたいくらいなのですが、この計画の関係者がどれくらいの努力をしているのかというところをまさにストーリー仕立てにして動画で情報発信しています。今日、見せていただいたビデオも、一般公開できるものかどうかわかりませんが、是非、関西電力の皆様にはどちらかという対外的よりは県内向けのインナープロモーションとして、徹底的に活用してもらいたいと思えます。先ほど渡辺先生が話をされたパンフレットも同様であり、お客様から見れば、今までなかった商品だから行きたいというのは分かりやすいのですが、それ以上に地元の方たちが、「こういう新しいものがあるらしいね」と意識し、価値については商品としてだけの価値ではなく、これまで何十年もかかってこのルートが開放された理由、意義がどこにあるのかを認識してもらいたいと思えます。先ほど、映画「黒部の太陽」の話も出ていましたが、はっきり言いますと大学で教えている今の学生はその映画をほとんど知りません。そういう意味では、改めてこの電源開発の歴史の価値が日本の経済にどう寄与していったかというのも含めて改めて広く認知していただくために、まずは県民に対して徹底的にあの動画を流してもらいたいです。県民向けに動画の内容も変えなければいけないかもしれませんが、まずは地元の方が知ること、価値を理解した上で県民が納得したもので良いものだということになれば、地域リアリティの無い商品になってしまいます。地元の方が良いと認めないものは外の方も認めません。グルメでもそうで、地元の方が食べていて美味しいからこそやって来ます。地元の方がうちには

こんな素晴らしい資源、それを活用した商品があるということを理解しない限りは、短期的なもので終わってしまうと思います。まさにこの年月かけて開放に至った新しい黒部ルートに関わっていらっしゃる関西電力の皆様には今後、今日のビデオをもっともっと前面に押した形で、まずはインナープロモーション動画として公開して頂きたい。先ほどスイスのロープウェイの動画の話をしましたけれども、もう少しエンターテインメント性を高めて、こんな新しい商品がありますという楽しい動画として発表していただけないかとは今日は改めて感じました。

あと、前回もお話しましたが、先ほどのプロダクト化、商品の話と、今後それに関わる特にガイドの話ですが、これまで宇奈月の方には受入環境整備をしていただいていた。ご存知の通り、県主催のとやま観光塾もありますので、特にこちらのガイドコースは渡辺先生にご指導いただいていますけれども、今後のインバウンドの再開を目指す上でも、人材育成としての連携の形があっても良いのではないかと考えていました。もちろん商品化の部分でも、学べるコースがいろいろとありますので、一緒にできる場所が多々あると思います。とやま観光塾のそれぞれのコースに宇奈月の方とか黒部の方が入っていただけると思うのですが、改めて新しいルートに向けて共通したテーマで考えても良いのではないのでしょうか。新ルート用の特別コースという話ではないかもしれませんが、そういうテーマ性をもって一緒に取り組まれる方がいてもよいのではないかと考えます。

コロナ禍という状況ではありますが、渡辺先生がおっしゃられた販売チャンネルにしても、より個人向けにどう売るかという部分に関しては、スマホも含めてデバイスの中のいろんなアプリ等の活用の仕方がどんどん加速しています。世の中動きが激しいので、このあたりも含めて先を見越した上で考え、注視して頂きたいと思います。

是非、この新しい黒部ルートが富山県の観光市場のピラミッドの頂点をぐっと引き上げる商品になるのならば、その次に続く商品、サービスの方も、特に地元宇奈月の方を中心にどんどん企画していただきたいです。この新しい黒部ルートに取り組みながらも地域の魅力を年間通じて発掘していただきたいと思います。これからは共通したテーマ・価値観を持つということが大事だと思いますので、この地域だからこそ共通した価値観を持って活動していると更に新しい動きがどんどん出てくることに期待させて頂きたいと思います。以上でございます。ありがとうございました。

#### 【西村委員長】

ありがとうございます。最後は黒部市長なのですが、少し前に事務局の方からタイムスケジュールや商品化について質問が出ているので回答していただいた上で、黒部市長に総括的にご発言していただいた方が良いかと思っております。

#### 【事務局】

先ほど永守委員様はじめスケジュールについての話をいただいたかと思っておりますけれども、具体的な料金、そして販売の商品化の意見なり、販路開拓のところに関しましても現状としてそれを複数案検討している中で、来年度中にこちらの方をお示しできるイメージとして頂きたいと思っています。1年前のところに商品造成、商品販売

準備という形でスケジュールを作らせていただいておりますけれども、ある程度定まったものを提供できるよう準備を進めさせていただきたいと考えておりますので改めてお願いします。また、販売の方法、紙媒体やスケジュールのご意見がありましたけれどもこういった販売方法と持続可能な先を見据えた個人向けの形ということでネット販売やそういった方への方向性というものも改めて検討しながら、同時進行で進めていくこととなりますけれども、現状検討中で、示させていただくことはできませんが、次年度中にはこちらの方を示させて頂きたいと考えております。

#### 【西村委員長】

ありがとうございます。それではここまでお聞きになって、お待たせいたしました、黒部市長ご発言お願いいたします。

#### 【大野委員】

皆様ご苦勞様でございます。黒部市長でございます。

先ほど担当から現在黒部市が取り組んでいる状況につきまして細かく説明がございました。その上尚且つ西村委員長から大変なご配慮で、あとは私の発言でということですので感謝申し上げたいと思います。

まず先ほど関電さんから工事の状況の映像がございました。私の方にも折に触れて関電さんから工事の状況報告をいつも頂いておりますが、わかりやすいこと言えば、安全対策工事無くして一般開放・旅行商品化無し、ということですので、この関電さんの工事が予定通り進むこと、それから事故が無くいくこと、これに尽きると思います。この取組みをしています、関電さんには敬意を示したいと思っております。

その上で、我が黒部市は昨年の3月31日に旧の黒部市と宇奈月町が合併いたしました。新市誕生15周年になりました。そのことがありまして、昨年4月から今年の3月までこの1年間、令和3年度ですが、15周年の記念イベントをやる、という1年間がございました。その1年間の間に旧黒部市と宇奈月町が合併した意義を改めて市民の方々に感じてもらう、その上でこの後どう進めば良いかということを考える1年にしたいと思って取り組んで参りました。ところが前半は特に大変なコロナ禍でございまして、全く事業ができず、11月によりやく1番大事な記念式典を終えることができませんでした。その後、私に直接市民の方から「15周年は良かった、いろんなことを思い出す機会になった、この後黒部市が取り組んでいく大事なことは何だ」という話をされる方が多く出て参りまして、大概の方が認識しておられるのは今日お話をいただいております黒部ルート一般開放のことです。15年経って益々これに対する関心度が黒部市民の中で高まってきたと言えると思うし、皆様方から色々なご意見を感激して聞いていました。

中心になります宇奈月温泉街、ここにつきましても国の事業導入と共に国や県の支援をいただいてどんどん再整備を進めております。これからも温泉街の方々の力を借りて、国、県と連携してこの整備を進めていただければありがたいなと思っております。その中で先ほど高木委員からもご発言がありましたが、黒部市だけのことを言いますとやはり何としてでも産業観光をしっかりと見据えつけていくこと

が大事だなと。おかげさまで黒部市には世界の核たるYKK、YKKAPという両株式会社がございます。まさに、ものづくり産業の最先端を行く会社でありますので、人々がここを訪れる体制は十分できておりますので産業観光として活かしていければ良いなど。更にはいろんな取組みをやっております、旅行商品化・一般開放にあたって電源開発の歴史が主に言われますけれども電源開発の歴史だけでなくしてそこを取り巻く地層でありますとか、岩盤でありますとか、こういったことも含めた産業観光はあるのかなと私は見ております。あくまでも我が黒部市だけの話であります、これが2024年に一般開放されれば、まちがいなく宇奈月地区がそのルート開放の発着点、つまり出発点でもあり着地点でもあるということではありますが、と同時にそのことが県内全体の観光振興の発着点になれば良いなとそういった心構えで黒部市長としてはみなければならぬ。閉鎖的にならずオープンにしてルート開放と共に黒部市はもちろんであります、新川地区、富山県全体の観光振興の発着点になれば良いなという思いでおります。今後とも黒部市だけの問題ではありませんが、我々地元として責任をもって頑張るつもりですので皆様方ご支援ご協力をこれからもよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

#### 【西村委員長】

どうもありがとうございました。それでは最後になりましたけれども、蔵堀副知事から一言いただければと思います。

#### 【蔵堀副知事】

本日多くの委員の皆様からご意見頂きました。大変ありがとうございました。私もまず関西電力さんの工事の安全対策、これが非常に大事だと思っております。コロナ禍の中で予定通り進めていただいていることに深く感謝を申し上げたいと思っております。それから開放されたあとも、利用される観光客の皆様の安全面ということも大変大事でございます。そうした点でも関西電力さんには今後ともよろしくお願い致します。

それから意見の中で電源開発の歴史をまずよく知ってもらおうと、それから黒部市長さんからは土壌であるとか地質であるとか、そうしたことについても知ってもらって、尚且つ地域の産業観光、更に県全体の観光を繋げていきたいというご意見頂きました。私共もそのようにしっかり取り組む必要があると考えております。今後とも努力して参りたいと考えているところであります。本日沢山の意見頂きましたけれども、今日ご出席頂きました皆様、多くの関係の皆様としっかり連携をいたしまして、電源開発はもちろんですけれども大自然の魅力ですとか、そういうことも県民の人に、地域の人にまずは知っていただいてそれを全国の皆様あるいは国外の皆様発信していくということにも努めて参りたいと考えております。一般開放・旅行商品化まであと2年ちょっとでございます。長いようでそんなに時間があるわけではありませぬので、しっかり取り組んで参りたいと思っております。西村委員長には本日の議事進行、本当にありがとうございました。委員の皆様にも今後ともご協力をお願いいたしまして本日の御礼とさせていただきます。どうもありがとうございました。



### 【西村委員長】

どうもありがとうございました。これで全体終わりました。私も一言ですけれども先ほどのビデオは大変感動するので、これはこのメンバーだけで視聴するのはあまりにももったいないと思いますし、こういう努力が電源開発には何十倍もの努力があったわけなので、本当に大事だと思います。まさにプロモーションにつなげていけると思いますので、是非こういうことも考えていただければと思います。よろしく願いいたします。それでは意見交換ここまでとしたいと思います。ご協力ありがとうございました。

## 5 閉会